

# 営業協議会を強化させ原職奪還を

日刊  
**動労千葉**

1988.9.6

No.2006

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（22）七二〇七

## オ三回松大営業代表者会議開催(%)

八月三十一日、動労千葉営業協議会は、本部において三回目の「拡大代表者会議」を開催した。

会議は、総武・千葉・京葉線・内房・外房・南総・北総の地区役員が参加して行われ、「八八年秋期闘争勝利」に向けて討論をした。

会議の冒頭に、本部を代表してあいさつした田中組織部長は、

「動労千葉の『営業ストライキ』以降、当局は一段とその攻撃を拡大してきている。京葉線暫定開業に伴いそれは必至である。敵は、京葉線からの動労千葉、国労排除を画策している。また、一部には『ミルクスタンド廃止』の声も出されている。」

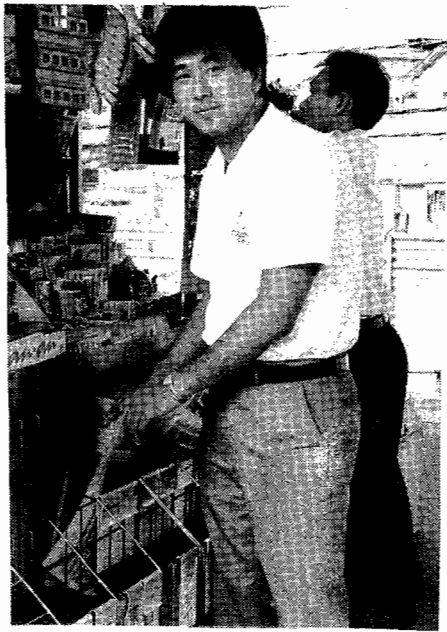
十月、動労千葉定期大会以降、本格的な反撃を打ちとらなくてはならない。『営業ストライキ』から『運転ストライキ』へ。営業協議会の任務は重大だ」と、この秋のたたかいへの決起を訴えた。

次に佐藤議長より、今後のたたかい、秋期闘争勝利に向けた「総括・提起」を受けた。

「動労千葉は、四波のストライキを闘い、七月、八月、間髪を入れず組織強化の闘いを展開した。全国でも、国鉄労働者の反撃は開始されている。このことは、当局、鉄道労連・革マルに大打撃を与えている。敵の目論んだ『一企業一組合』は失敗している。革マル・松崎の千葉、東鉄労8・8大宮集会ともども大破産に終わっている。」

危機にかられた敵の攻撃は、京葉線からの排除、アゴヒモ・カーテン、乗務停止乱発などに見られるごとく、エスカレートする一方だ。こうした攻撃にはストライキをもって闘おう。

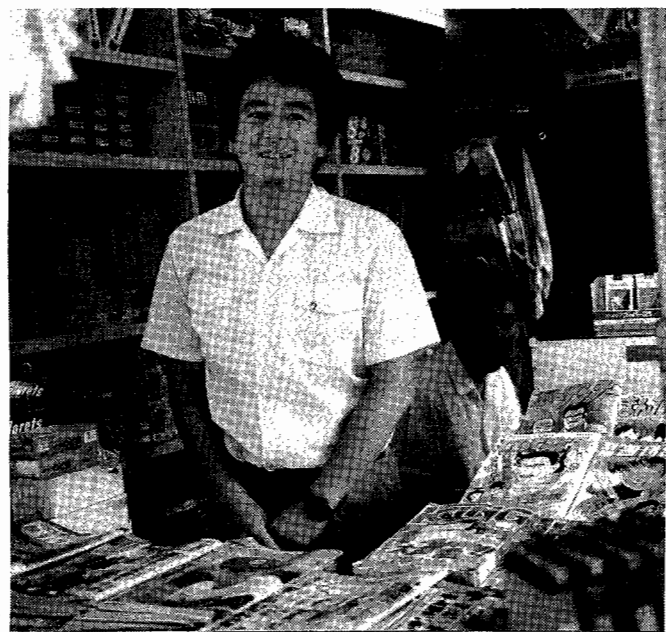
今秋期闘争に絶対に勝利しよう。京葉線開業時の配転攻撃を許してはならない。10・2・3の定期大会の成功をかちとり、営業協議会を強化させ、原職奪還、事業部運動を全組合員の手でかちとっていく」と提起した。



次に、営業協議会としての具体的行動予定と、討論に入り、次のことを決定した。

- ① 討論の中で出された「災害時の駅区の勤務変更」「多客時の駅区の労働量」「休憩時間の確保」などの問題点、ならびに職場要求は、当局に団交を申し入れ、それを継続化させて解決をはかる。
- ② 営業協議会全員の交流会を、九月二十八日から三日間、弁天町会館で開催する（二十八日は動力車会館）
- ③ 「9・11国鉄労働者集会」「10・2・3第十五回定期大会」を中心とした今秋期闘争の先頭にたつ。

以上、三点を中心に、全参加者が確認した。強制配転を断じて許さず、原職奪還に向けて全力でたたかおう！



強制配転された仲間の怒りをわがものに！原職奪還をかちとるためにたたかおう！

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

9・11国鉄労働者集会  
●東京・南部労政会館 ●十三時  
●集合 千葉駅7番ホーム・十一時十五分